

国際希少野生動植物種の追加及び削除の内容

1. 国際希少野生動植物種に追加する種

(1) *Manis crassicaudata* (インドセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

インド、バングラデシュ、ネパール、パキスタン、中国及びスリランカに生息する。個体数は不明だが、バングラデシュ及び中国では既に絶滅しているか低密度に生息していると考えられており、その他の分布域においても個体数の減少傾向が示されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が増加している。



(2) *Manis culionensis* (マニス・クリオネンシス)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

フィリピンの固有種で、パラワン動物保護区内にある6島の低地林にのみ生息する。過去約20年間に於ける個体数の激減が報告されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による生息地の減少に加え、食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。



(3) *Manis gigantea* (オオセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、コートジボワール、赤道ギニア、ガボン、ガーナ、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、リベリア、ナイジェリア、セネガル、シエラリオネ、タンザニア、ウガンダに生息し、ルワンダでは既に絶滅している。個体数の減少傾向が示されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による生息地の減少に加え、食肉目的又は薬の原材料としての鱗



アフリカに生息するセンザンコウ((3)(6)~(8))の一種

の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。

(4) *Manis javanica* (マライセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ及びベトナムに生息する。過去約20年間における個体数の激減が報告されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。



東・東南アジアに生息するセンザンコウ((4)及び(5))の一種

(5) *Manis pentadactyla* (コミミセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

ブータン、中国、インド、ラオス、ミャンマー、ネパール、タイ、ベトナムに生息する。過去約20年間における個体数の激減が報告されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。

(6) *Manis temminckii* (サバンナセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

ボツワナ、中央アフリカ共和国、チャド、ケニア、マラウィ、モザンビーク、ナンビア、ルワンダ、南アフリカ、南スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、シンバブエに生息しており、スワジランドでは既に絶滅した可能性が高い。個体数の減少傾向が示されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による生息地の減少に加え、食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。

(7) *Manis tetradactyla* (オナガセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 センザンこう科

2) 分布状況

カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、コートジボワール、赤道ギニア、ギニア、ガボン、ガーナ、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネに生息する。個体数の減少傾向が示されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による生息地の減少に加え、食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。

(8) *Manis tricuspis* (キノポリセンザンコウ)

1) 分類

有鱗目 せんざんこう科

2) 分布状況

アンゴラ、ベニン、カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ民主共和国、コートジボワール、赤道ギニア、ギニア、ガボン、ガーナ、ギニアビサウ、ケニア、リベリア、ナイジェリア、ルワンダ、シエラレオネ、南スーダン、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、ザンビアに生息。個体数の減少傾向が示されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による生息地の減少に加え、食肉目的又は薬の原材料としての鱗の需要が高く、地元での利用に加え、国際取引を目的とした密猟が生じている。

(9) *Macaca sylvanus* (バーバリーマカク)

1) 分類

霊長目 おながざる科

2) 分布状況

アフリカ北部の固有種で、モロッコ、アルジェリアにのみ生息している。個体数の減少傾向が示されている。



3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息地の減少が主な要因であり、地域によっては個体の密猟も大きな脅威となっていると考えられるものの、これらが国際的に取引されているかは定かではない。

(10) *Psittacus erithacus* (ヨウム)

1) 分類

おうむ目 とうむ科

2) 分布状況

西・中央アフリカの22~23カ国における湿潤な低地林に生息し、分布域の半分程度をコンゴ民主共和国が占めている。個体数推定は極めて困難であり、



正確な個体数は明らかではないが、生息域が広域であることから、数十万頭程

度が生息すると推定されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

本種はペットとしての需要があり、森林減少に伴う生息地の減少及び分断化に加え、一部の地域を中心に違法な国際取引を目的とした捕獲が生じている。

(11) *Abronia anzuetoi* (アンズエトキノボリアリゲータートカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 あしなしとかげ科

2) 分布状況

グアテマラに生息するアブロニア属9種のうちの1種であり、グアテマラ中南部の固有種で、森林内の特定の狭い範囲(約24km²程度)にのみ生息する。個体数及びその傾向は不明である。



キノボリアリゲータートカゲ
((11) ~ (15)) の一種

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

分布域が極めて狭い上に、生息地の劣化が見込まれる。また、アブロニア属の各種にはペットとしての需要があり、本種も国際取引を目的として違法に捕獲されている。

(12) *Abronia campbelli* (キャンベルキノボリアリゲータートカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 あしなしとかげ科

2) 分布状況

グアテマラに生息するアブロニア属9種のうちの1種であり、グアテマラ東部の固有種で、特定の狭い範囲(約18km²程度)にのみ生息する。推定個体数は約500個体程度で、生息地の減少・劣化に伴い減少していると推測される。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

分布域が狭い上に、生息地の減少及び劣化が続いている。また、アブロニア属の各種にはペットとしての需要があり、本種も国際取引を目的として違法に捕獲されている。

(13) *Abronia fimbriata* (フサキノボリアリゲータートカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 あしなしとかげ科

2) 分布状況

グアテマラに生息するアブロニア属9種のうちの1種であり、グアテマラ中東部の固有種で、山岳地の一定範囲(約1500km²程度)にのみ生息する。個体数及びその傾向は不明である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

一定の分布域を有すものの、生息地の減少及び劣化が生じている。また、ア

ブロニア属の各種にはペットとしての需要があり、本種も国際取引を目的として違法に捕獲されている。

(14) *Abronia frosti* (フロストキノボリアリゲータートカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 あしなしとかげ科

2) 分布状況

グアテマラに生息するアブロニア属9種のうちの1種であり、グアテマラ北東部の固有種で、山岳地に極めて局所的に(約0.7km²程度)生息している。個体数及びその傾向は不明であるが、生息地の減少・劣化に伴い減少していると推測される。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

分布域が極めて狭い上に、生息地の減少及び劣化が生じている。また、アブロニア属の各種にはペットとしての需要があり、本種も国際取引を目的として違法に捕獲されている。

(15) *Abronia meledona* (メレドナキノボリアリゲータートカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 あしなしとかげ科

2) 分布状況

グアテマラに生息するアブロニア属9種のうちの1種であり、グアテマラ南東部の固有種で、山岳地の一定範囲(900km²以下程度)にのみ生息する。個体数及びその傾向は不明である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

一定の分布域を有すものの、生息地の減少及び劣化が生じている。また、アブロニア属の各種にはペットとしての需要があり、本種も国際取引を目的として違法に捕獲されている。

(16) *Cnemaspis psychedelica* (ゲンカクマルメスベユビヤモリ)

1) 分類

とかげ亜目 やもり科

2) 分布状況

ベトナム南部のホンコアイ島の固有種で、面積6km²未満の狭い範囲にのみ生息。2010年に新たに記載された種であり、個体数は不明だが、2015-2016年の個体数調査では計526個体が確認されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

分布域が極めて狭い上に、ペットとしての需要があり、違法な捕獲及び国際取引が生じている。主に欧州やロシアにおけるインターネットを介した売買が報告されている。



(17) *Lygodactylus williamsi* (アオマルメヤモリ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 やもり科

2) 分布状況

タンザニア東部の固有種で、ウルグル山地のふもとの熱帯低地林の特定の地域(計20km²程度)の範囲内に、4つの地域個体群がパッチ状に存在する。

個体数は不明だが、多くの個体群が生息するある森林保護区では約15万頭の生息が推定されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

分布域が狭い上に、ペットとしての需要があり、違法な捕獲及び国際取引が生じている。主に米国や欧州でインターネットを介して多数販売されており、飼育繁殖個体として売られているものも多いが、タンザニアの報告によると密猟者グループがり、数万頭が違法に捕獲されていると推察されている。



(18) *Shinisaurus crocodilurus* (ワニトカゲ)

1) 分類

とかげ亜目 わにとかげ科

2) 分布状況

中国南部(広西チワン族自治区及び広東省)及びベトナム北部(バクザン省及びクアンニン省)

にのみに生息する。少数の分断された狭い地域に生息し、各地域個体群のサイズも小さい。個体数は減少しており、1978年時点では中国だけで6,000頭程度生息していたと考えられるのに対し、2004年時点で1,050頭以下(中国約950頭、ベトナム約100頭)と推定されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

気候変動による生息適地の減少が想定されるとともに、河川汚染や森林伐採等による生息地の減少及び劣化が問題となっている。中国では食用や伝統的な薬の材料として利用され、国際的にはペットとしての需要があり、これらの目的での野生個体の捕獲が生じている。



(19) *Telmatobius culeus* (チチカカミズガエル)

1) 分類

無尾目 みなみがえる科

2) 分布状況

ペルーとボリビアにまたがるチチカカ湖及び隣接する湖沼にのみ生息する。個体数については、異なる推定結果が示されており定かではないが、数百万から数千万頭が生息すると推定される。場所によっては前年の70%が減少していたなど、個体数の減少



が推察されている。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

チチカカ湖の周辺の鉱業活動や廃棄物汚染により生息地の劣化が生じている。食肉や伝統薬として、大量に国内やペルーで消費されており、また米国や欧州等への食肉の輸出や、海外でのペットとしての取引が確認されており、それらのための捕獲が生じている。

(20) *Polymita*属 (ポリユミタ属) 全種

1) 分類

柄眼目 ケボリダ工科

2) 分布状況

ポリユミタ属全種(6種)はキューバの絶滅危惧種である。既に絶滅した地域もあり、生息範囲は種によって異なるが数百から数千km²である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息地の減少及び分断化に加え、殻のアクセサリーとしての需要等があり、違法な捕獲及び国際取引が生じている。



(21) *Sclerocactus blainei* (スクレロカクトゥス・ブライネイ)

1) 分類

植物界 サボテン科

2) 分布状況

米国ネバダ州及びユタ州の標高1500~1800mの狭い範囲に分布し、生育が確認されているのは3か所のみである。生育数の傾向は不明である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

石油・ガスの探査・抽出活動やオフロード車の乗り入れによる生息地の劣化、家畜による踏みつけが生じている。また、園芸市場で人気があり、違法な採取と国際的な取引が行われている。特に種子は持ち出しや輸送が容易なため、採取されやすく、長期的な繁殖成功に影響しているおそれがある。



スクレロカクトゥス属((21)~(23))の一種

(22) *Sclerocactus cloverae* (スクレロカクトゥス・クロヴェラエ)

1) 分類

植物界 サボテン科

2) 分布状況

米国コロラド州とニューメキシコ州(ナバホ・ネイションを含む)の標高1500mから2600m程度に分布し、21~80箇所で生育が確認されている。生育数の傾向は不明である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

石油・ガスの探査・抽出活動やオフロード車の乗り入れによる生息地の劣化、家畜による踏みつけが生じている。また、園芸市場で人気があり、違法な採取と国際的な取引が行われている。特に種子は持ち出しや輸送が容易なため、採取されやすく、長期的な繁殖成功に影響しているおそれがある。

(23) *Sclerocactus sileri* (スクレロカクトゥス・スィレリ)

1) 分類及び種名

植物界 サボテン科

2) 分布状況

米国アリゾナ州の標高1600-1700mの限られた範囲(1000km²)にのみ生育し、10~12か所(1か所あたり2~10個体)で生育が確認されている。生育数の傾向は不明である。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

石油・ガスの探査・抽出活動やオフロード車の乗り入れによる生息地の劣化、家畜による踏みつけが生じている。また、園芸市場で人気があり、違法な採取と国際的な取引が行われている。特に種子は持ち出しや輸送が容易なため、採取されやすく、長期的な繁殖成功に影響しているおそれがある。

2. 国際希少野生動植物種から削除する種

(1) *Puma concolor coryi* (フロリダピューマ)

1) 分類

食肉目 ねこ科

2) 分布状況

アメリカ合衆国フロリダ州の一部にわずかな数の個体が生息している。

3) 附属書Iからの削除理由

個体数は少ないものの、国際取引は極めて限定的であり、違法取引や需要も確認されていない。



Puma concolor (ピューマ)
((1)及び(2))

(2) *Puma concolor cougar* (ペンシルバニアピューマ)

1) 分類

食肉目 ねこ科

2) 分布状況

かつては、北米東部(アメリカ合衆国及びカナダ)に生息していた。

3) 附属書Iからの削除理由

既に絶滅した可能性が高い。

(3) *Equus zebra zebra* (ケープヤマシマウマ)

1) 分類

奇蹄目 うま科

2) 分布状況

南アフリカの固有亜種で、ケープ地域の草原地帯や半砂漠気候地帯に小集団が散在している。

3) 附属書 I からの削除理由

国有の保護区域及び私有の野生放牧場における保護管理により、個体数が増加している。



(4) *Dyscophus antongilii* (アントンギルガエル)

1) 分類

無尾目 ひめがえる科

2) 分布状況

マダガスカル北東部及び東部の温暖なアントンギル湾周辺等に生息する。個体数は不明だが、保護区内など局所的には個体数が多い。

3) 附属書 I からの削除理由

ごく普通に観察され、個体数が顕著に減少している兆候は確認されていない。



3 . 今後の予定等

平成 28 年 11 月 8 日 (火) から平成 28 年 12 月 7 日 (水) までの間、パブリックコメントを実施中。ワシントン条約の今回の附属書改定は、締約国会議で採択された平成 28 年 10 月 4 日 (火) から起算して 90 日目の平成 29 年 1 月 2 日 (月) に効力が生じるため、同じ期日に改正政令を施行する予定。